

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項に基づく

中津市教育委員会施策の
点検・評価に関する報告書
(平成24年度対象)

平成25年8月29日

中津市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1.	目的	1
2.	点検・評価の実施方法等	1
(1)	法定事項	1
(2)	実施方法	1
3.	自己評価及び総合評価の判定基準	1
(1)	自己評価について	1
(2)	総合評価について	2
II	点検・評価	3
1.	施策名と評価一覧	3
2.	評価の分析	6
3.	施策毎の目標、達成状況等	7
(1)	表の見方	7
(2)	各施策の内容	8
III	学識経験を有する者の知見	32
IV	おわりに	35

I はじめに

1. 目的

平成 19 年 6 月に一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）第 27 条の規定により、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、中津市教育委員会では、教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、今後の効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、この点検・評価を実施し、報告書にとりまとめました。

2. 点検・評価の実施方法等

(1) 法定事項

点検・評価の実施については、次の 4 点が法定事項になっています。

- ①毎年実施すること。
- ②教育委員会の権限に属する事務(教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務を含む。)の管理・執行状況について点検・評価を行うこと。
- ③点検・評価の実施に当たっては、学識経験を有する者の知見の活用を図ること。
- ④点検・評価結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表を行うこと。

(2) 実施方法

①対象期間

平成 24 年度の管理・執行状況

②点検・評価の項目について

中津市教育委員会では、市教育行政の長期的、総合的な指針として、第四次中津市総合計画（平成 20 年 12 月策定）及び中津市教育振興基本計画（平成 21 年 3 月策定）に基づき各種施策を推進しており、平成 24 年度は重点的な 39 項目について点検・評価を行いました。

③学識経験を有する者の知見の活用について

教育に関し学識経験を有する者の知見活用に当たっては、教育委員や現職教員・事務局職員ではない者で、教育に関して公正な意見を述べるのが期待できる人の知見を活用しました。

④報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、定例市議会（文教経済委員会）に提出し、その後、中津市教育委員会のホームページに公表します。

3. 自己評価及び総合評価の判定基準

(1) 自己評価について

事業主管課長が、適応性・効率性・達成度の 3 つの着眼点で、5 段階で自己評価しました。

評価項目	着 眼 点
適応性	①市民ニーズや社会の変化に対応しているか
	②同じ目的を達成するために他に手段はないか
効率性	③内容の見直しや重点化を行っているか
	④事業の円滑な推進のための調整を行っているか
達成度	⑤当初の目標どおりに進めることができているか

【ランク説明】

ランク	着 眼 点
5	達成（80%以上）
4	着実に進捗（相当程度達成・79～60%）
3	やや不十分（59～40%）
2	不十分（39～20%）
1	抜本的見直しが必要（19～0%）

（2）総合評価について

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価をしました。

ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

II 点検・評価

以下に、平成 24 年度の具体的な施策内容、評価結果などについて報告します。

1. 施策名と評価一覧

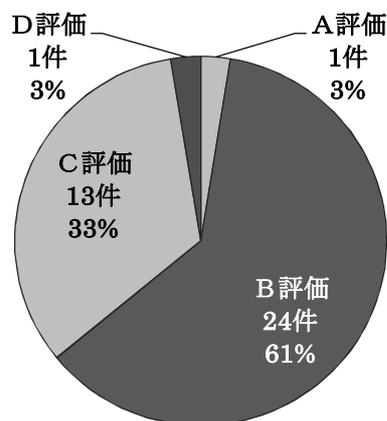
施策別 基本目標	基本姿勢		施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
教育委員会の充実	教育委員会の活性化	1	教育委員会活動の充実	4	B	教育総務課
	教育行政の推進	2	市民等の意見・要望の反映	4	B	学校教育課
施設設備 (学校施設の安全・安心な 環境整備)	学校施設耐震化対策	3	耐震補強及びトイレ 設備改修の計画的推 進	5	A	教育総務課
学びの基礎を培う学校教 育 (一人ひとりを大切にす る教育)	幼(保)小中(高)連 携	4	幼稚園教育の充実	4	B	学校教育課
		5	小1・中1ギャップ の改善	4	B	学校教育課
	学力向上対策	6	授業改善による学力 向上対策	3	C	学校教育課
		7	小中連携による学力 向上対策	4	B	学校教育課
		8	地域の教育資源の活 用推進	4	B	学校教育課
	不登校ゼロの学校 づくり	9	不登校未然防止と適 応指導教室の充実	3	C	学校教育課
	特別支援教育の充 実	10	教育補助員の拡充	4	B	学校教育課
	授業力向上	11	教職員研修の充実	4	B	学校教育課
	学校適正規模・適正 配置の指針検討	12	小規模小学校適正配 置の検討	2	C	耶馬溪教育 C 教育総務課

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名		自己 評価	総合 評価	所管課
学校と家庭の連携	家庭教育の充実	13	P T Aとの連携強化	3	C	学校教育課
		14	生活習慣、学習環境、 家庭学習	3	C	学校教育課
		15	生活習慣、学習習慣、 家庭学習	4	C	生涯学習課
施設設備 (その他の施設整備)	コミュニティー センター	16	コミュニティーセン ターの計画的建設	4	B	生涯学習課
学びつづける生涯学習 (郷土に誇りを持つ市民)	中津市地域協育 振興プラン推進 事業	17	中津市地域協育振興 プラン推進事業	4	B	生涯学習課
		18	放課後こども教室 (学びの教室)	4	B	生涯学習課
	「郷土愛教育」循 環システムの構 築	19	ワンパク！たんけん 中津	4	B	生涯学習課
		20	なかつキッズ・サイ エンス	4	B	生涯学習課
		21	三保小学校人形劇ク ラブの育成	4	B	生涯学習課
		22	福澤諭吉記念事業	4	B	生涯学習課
		23	公民館活動における 地域のふるさと学習	4	C	生涯学習課
		24	中津市生涯学習大学 「中津学」	2	C	生涯学習課
		25	なかつ学びんびっく (子ども中津検定)	4	B	生涯学習課
		26	偉人シリーズ、マン ガ本の発刊	4	B	文化振興課 文化財

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
文化芸術の香るまち (文化・芸術活動の推進)	図書館の充実	27 利便性の向上	3	C	文化振興課 図書館
		28 学校図書館との連携	4	C	文化振興課 図書館
		29 子ども読書活動推進 計画の策定	4	B	文化振興課 図書館
	文化・芸術活動の推 進	30 芸術文化事業 (木村記念美術館)	2	D	文化振興課 図書館
	歴史、文化の継承	31 地域での歴史、文化 研究支援	3	B	文化振興課 文化財
	古代ゾーン推進事 業	32 沖代条里展望施設工 事、古代ゾーン遺跡 見学者用パンフレッ ト印刷	4	B	文化振興課 文化財
健康づくり (生涯にわたるスポーツ 振興「心豊かで健康な生活 を」)	スポーツ施設の充 実	33 スポーツ施設の計画 的な整備	4	B	体育保健課
		34 スポーツ施設の利用 促進	3	C	体育保健課
	スポーツ振興	35 生涯スポーツの推進	3	C	体育保健課
	学校保健・体育の充 実	36 学校保健・体育環境 の充実	3	C	学校教育課
健康な体づくり (安全安心でおいしい学 校給食)	地産地消の推進	37 生産者(団体)との 連携	4	B	体育保健課
	食育の推進	38 児童生徒、保護者へ の啓発	3	B	体育保健課
	施設・設備の改修	39 全調理場のドライシ ステム化及び機械、 器具等の更新	4	B	体育保健課

2. 評価の分析

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価したところ、A評価1件、B評価24件、C評価13件、D評価1件となりました。



ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

各課では教育の向上を図るために、毎年より高い意識を持って施策の目標設定を行っており、その達成に努めています。その結果、評価ランクの割合は、A評価への到達は非常に厳しくなっており、1施策のみとなっています。

A評価を受けた施策は、「耐震補強及びトイレ設備改修の計画的推進」で平成23年度に『学校施設耐震化補強計画』完了年度を一年前倒ししておりましたが、さらに一年前倒しし、事業完了を平成26年度としたことによるものです。

また、D評価を受けた施策が2施策から1施策に減っていますが、C評価の割合が、26%から33%に増えています。この結果を真摯に受け止め、今後も、より高い目標の達成を目指し、施策の設定及び評価を継続していきたいと考えています。

3. 施策毎の目標、達成状況等

(1) 表の見方

表の項目について、大、中、小とありますが、これは、それぞれ大分類（施策別基本目標）、中分類（基本姿勢）、小分類（施策名）を指しています。

大 分 類		中 分 類	
1	教育委員会の充実	A	教育委員会の活性化
		B	教育行政の推進
2	施設設備（学校施設の安全・安心な環境整備）	C	学校施設耐震化対策
3	学びの基礎を培う学校教育 （一人ひとりを大切にする教育）	D	幼（保）小中（高）連携
		E	学力向上対策
		F	不登校ゼロの学校づくり
		G	特別支援教育の充実
		H	授業力向上
I	学校適正規模・適正配置の指針検討		
4	学校と家庭の連携	J	家庭教育の充実
5	施設設備 （その他の施設整備）	K	コミュニティーセンター
6	学びつづける生涯学習 （郷土に誇りを持つ市民）	L	中津市地域協育振興プラン推進事業
		M	「郷土愛教育」 循環システムの構築
7	文化芸術の香るまち （文化・芸術活動の推進）	N	図書館の充実
		O	文化・芸術活動の推進
		P	歴史、文化の継承
		Q	古代ゾーン推進事業
8	健康づくり （生涯にわたるスポーツ振興「心豊かで健康な生活を」）	R	スポーツ施設の充実
		S	スポーツ振興
		T	学校保健・体育の充実
9	健康な体づくり （安全安心でおいしい学校給食）	U	地産地消の推進
		V	食育の推進
		W	施設・設備の改修

(2) 各施策の内容

No	分類			目 標
	大	中	小	
1	1	A	教育委員会活動の充実	<p>定例教育委員会は毎月開催し、臨時教育委員会、教育委員懇話会及び教育委員勉強会は、必要に応じて随時実施している。平成23年度には移動教育委員会を2回（7月…三光支所、1月…本耶馬溪支所）開催し、その内容をホームページで紹介してきた。今までの取り組みは継続しつつ、平成24年度は、①学校訪問と別に小中学校長やPTAとの意見交換会、②社会教育委員など各種委員会との意見交換会、③先進地視察など研修機会の拡充を図る。</p>
2	1	B	市民等の意見・要望の反映	<p>開かれた学校づくりや市の教育行政を推進するとともに、保護者や地域との積極的な連携を図るため、以下のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学校の自己評価及び学校関係者評価を積極的に公表する。 ○学校ホームページを定期的に更新をするなどし、学校情報の積極的公開に努める。また、7月の第2日曜日を市内中学校統一学校公開日とし、開かれた学校づくりを推進する。 ○中津市教育委員会のホームページをさらに充実させる。 ○地域住民や保護者及び学校現場からの意見や要望に対して真摯に対応し、関係部局とも連携を取りながら対処するようにする。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<ul style="list-style-type: none"> ○毎月1回の定例教育委員会を開催し、会議に諮られた議案(47件)及び報告(23件)等について、教育委員による活発な意見出しや質疑を行うとともに、諮られた案件について指導・指示をし、案件の可決・了承を行った。また、喫緊の案件については、その都度、臨時教育委員会を開催し(7回)、速やかにその対応を実施した。 ○教育委員会開催時には、原則公開として開催予定を広報すると共に、傍聴希望者(14人)については入室を許可した。また、様々な方が容易に傍聴できるよう、市庁舎外での会議開催(耶馬溪支所7/22, 山国支所1/20)にも取り組むと共に、会議録の開示希望者については原則公開(2件)した。加えて、移動教育委員会終了後、豪雨災害により、被災した下郷、城井小学校ほか教育委員会関連施設の現地視察を行い、現状把握に努め、その後の復旧計画策定に生かした。 ○教育行政を推進するにあたり必要に応じ、事務局等が行う事業の事前説明を求めると共に進捗状況等において、課題や対応・目途等の説明を求め、事業の現状把握と方向性の指導・指示を行った。 ○5月と11月に、教育委員が分担して、幼稚園、小・中学校を訪問し、各園・学校の現状や取り組みを視察し、意見を交換した。 ○市内小中学校PTA(26名)との懇談会(2/13)、社会教育委員との懇談会(3/4)を実施した。 ○大分県市町村教育委員連合会総会(杵築市:5/29)に参加し、「第2期教育振興基本計画」について、受講した。 ○佐賀市教育委員会(市立城西中学校)を視察(11/14)し、「学びの共同体授業」について研修を行った。 	4	B	教育総務課
<ul style="list-style-type: none"> ○各学校は学校評議員制度を効果的に活用し学校運営の改善に努めることができた。 ○積極的な情報提供のために学校ホームページの定期的な更新を行った。 ○市教委は、「学校教育の動き」としてホームページに掲載し、4月より毎月2回程度の更新を行い、学校行事などでの子どもたちの活動を中心に積極的な情報提供となった。 	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
3	2	C	耐震補強及びトイレ設備改修の計画的推進	<p>学校施設耐震化の早期実施に向け、推進計画により、計画的に耐震化を推進し、それに併せて、トイレ設備改修の必要性を見極め、改修を行う。</p> <p>○中津中学校屋内運動場(棟番⑤：1期)改築事業、鶴居(棟番⑭、⑯)・大幡(棟番⑬)・下郷(棟番①-1, ①-2)小学校校舎、本耶馬溪中学校校舎(棟番①)、山移小学校 屋内運動場(棟番③)、山国中学校屋内運動場(棟番⑩)の耐震補強及びトイレ設備改修を行う。</p> <p>※中津中学校は平成24～25年度の2カ年事業</p>
4	3	D	幼稚園教育の充実	<p>幼稚園教育の充実を図り、保護者から信頼される魅力ある幼稚園教育を実践する。</p> <p>○魅力ある教育課程の編成、保育所や小学校との連携交流、体験活動の重視や地域資源(ひと・もの・こと)の活用、保護者との連携による基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>○研修内容を充実し、教職員の指導力及び資質の向上を図る。</p> <p>○預かり保育を充実させ、社会や保護者のニーズへ対応する。</p> <p>○教育活動をホームページで紹介し、入園受付や説明会をさらに工夫し、啓発活動を推進する。</p>
5	3	D	小1プロブレム、中1ギャップの改善	<p>幼保小の円滑な接続を図り、小1プロブレムの発生を抑え、中1ギャップを解消する。</p> <p>○幼稚園・小学校の接続を図る教育課程の編成を実施し、その効果検証を図る。</p> <p>○だいひ保育園・今津幼稚園・今津小学校を中心として取り組む「小1プロブレム対策推進事業」を継続する。</p> <p>○小学校教諭を幼児教育施設に一年間派遣し、幼保小接続に関する研修を実施する。(「公立小学校教諭幼児教育施設派遣研修」の実施)</p> <p>○各中学校ブロックでの小中連携の内容充実を図る。(学び合いのある授業づくりの実践)</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○平成 24 年 10 月 11 日事業完了 鶴居小学校校舎（棟番⑭、⑯） 大幡小学校校舎（棟番⑬） 下郷小学校校舎（棟番①-1, ①-2） 山移小学校屋内運動場（棟番③） 山国中学校屋内運動場（棟番⑩）</p> <p>○平成 25 年 3 月 29 日事業完了 本耶馬溪中学校校舎（棟番①）</p> <p>※中津中学校は平成 24～25 年度の 2 カ年事業</p>	5	A	教育総務課
<p>○各園で小学校との交流はなされている。保育所との交流は一部の園で小学校への合同見学会などが実施されるようになった。教育課程では、主体的な活動や基本的な生活習慣を促すことに工夫している。</p> <p>○年 2 回市主催の研修会を開催している。</p> <p>○預かり保育の参加率は、ほぼ横ばいである。</p> <p>○ホームページでの園活動の紹介は十分にできていない。</p>	4	B	学校教育課
<p>○今津小学校で、これまでの幼保小連携の成果を取り入れた接続期の教育課程（1年生スタートカリキュラム）を作成し、実施した。入学後の1年生がこれまで以上に円滑な小学校生活を始めることができた。</p> <p>○「小 1 プロブレム対策推進事業」及び「公立小学校教諭幼児教育施設派遣研修」の成果等を「中津市幼保小連携に係る研修会」「中津市幼保小連携協議会」において報告し、連携推進につなげた。</p> <p>○小中連携では、相互の授業参観や職員の合同研修の場が増加した。また、PTA の合同研修会を実施する学校ブロックも出始めた。</p>	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
6	3	E	授業改善による学力向上対策	<p>「学び合いのある授業づくり・1時間完結型授業・板書の工夫・ノート指導」の実践をさらに浸透させる。 また、低学力層の底上げ、基礎基本の定着、活用する力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究主任会議を一層充実させ、各学校の校内研修を活性化させる。 ○校内研修会等への指導主事、学校指導専門員の積極的な参加による指導・助言の継続。 ○学力向上支援員（平成24年度中津中、豊陽中、豊田小、沖代小配置）による授業改善の推進を図る。 ○国際化に対応できる子どもの育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ALTによる早い段階での外国語に慣れ親しむ取り組みをする。（幼稚園・小学校低学年からの試行） ○読書活動の充実と調べ学習に対応できる図書館づくり <ul style="list-style-type: none"> ・中学校ブロックに各1名の学校司書（計10名）を配置する。 ・学校図書館の充実、読書活動の推進、学習活動の支援、心の居場所づくりを行う。 ○市基礎基本定着調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小4～中3で実施（その学年で身につけるべき基礎的な知識・技能の確実な習得…フォロー学習）
7	3	E	小中連携による学力向上対策	<p>全中学校ブロックで「小中連携会議」及び「相互授業参観」「授業交流」などを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成24年度学力向上支援事業（豊陽中ブロック、中津中ブロック）の取り組みを行い、自主公開授業、教科授業研究会などを積極的に行う。 ○小中連携会議、授業交流（小中学校の教員乗り入れ授業）、授業研究会への相互参加、小中合同研修会を継続して実施し、学力向上を推進する。 ○研究主任会議を一層充実させ、各学校の校内研究を活性化させる。 ○学校指導専門員を積極的に活用し、小中連携による学力向上を推進する。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<ul style="list-style-type: none"> ○「学び合い」の理念や理論の共有化はできた。学校全体として授業改善に取り組む学校も増加している。 ○子どもにとってわかりやすい授業として板書やノート指導の工夫が多くの学校でなされている。 ○県基礎基本定着調査や全校学力調査結果から見ると、活用力の育成は不十分である。そのためには、学び合いのある授業づくりにおいて、課題解決を図る授業改善を行う必要がある。 ○学力向上支援教員配置校では、自主公開や学力向上支援教員による授業が合計50回を越え、授業改善の取り組みを発信できた。 ○ALTの活用については、幼稚園での取り組みが実施できておらず、次年度への課題である。小学校低学年では、小規模校を中心に触れあい活動が出来ている。 ○3～4校に1名の学校図書館司書の配置により学校図書館の環境整備が充実してきた。今後は、学校と連携して読書活動の推進や学習支援に向けての取り組みを積極的に行いたい。 	3	C	学校教育課
<ul style="list-style-type: none"> ○「小中連携会議」「相互授業参観」は全ての小中学校で実施された。 ○中学校教員が小学校で授業を行う「授業交流」は継続して実施された。 ※状況に応じて随時行っている校区は約8割程度（うち、兼務発令などを行い積極的に実施しているのは今津中学校区） ○小中の教職員の合同研修会を行う中学校ブロックが増加。研究主任会の中でブロックごとの協議の時間を設定し、定期的な情報交換につなげている。 ○学校指導専門員が積極的に小中連携を推進している。 	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
8	3	E	地域の教育資源の活用推進	<p>中津市にゆかりのある郷土の偉人福澤諭吉などについて、詳しく知り、地域の伝統・文化を学び、そこに生きるすばらしさを実感し、郷土に誇りをもち、「ふるさとなかっ」を語れるような児童・生徒を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中津市の郷土の偉人（福澤諭吉など）に関する読書感想文・画コンクールを行う。 また、各学校が地域の人材を活用した取り組みを実践する。 ○生涯学習課と連携した「なかっスクスクプロジェクト」が円滑に組み込まれるために、各学校で「地域協育担当教員」による活動を充実させる。 ○地域教材「私たちの中津市」を活用した授業実践を推進する。 ○「まちなみ歴史探検」事業を積極的に活用する。
9	3	F	不登校未然防止と適応指導教室の充実	<p>不登校（不登校を理由に年間 30 日以上欠席）の出現率減少を目指す。（目標値として小学校 0.30%・中学校 2.50 %）</p> <p>また、不登校の未然防止として、魅力ある学校づくり（授業づくり・学び合い・仲間づくり）を一層推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○適応指導教室事業を活用した教職員の研修（適応指導教室担当指導主事を学校に派遣など）を実施するよう各学校に働きかける。 長期欠席者について個票を作成し、指導経過を明確にし、組織的に支援する。学校指導専門員、不登校対応指導員、不登校対応嘱託員の活用を図る。 ○文科省事業「魅力ある学校づくり」の成果を還流する。
10	3	G	教育補助員の拡充	<p>特別支援の必要な幼児・児童・生徒への校内支援体制をさらに充実する。</p> <p>また、教育補助員を一層効果的に活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「個別の指導計画」を作成し、各学校においてコーディネーターを中心に関係機関及び家庭と連携した支援を進める。 ○教育補助員の適切な配置と充実を図る。（担任との連携体制） ○教育補助員の資質向上のための特別支援教育研修会の内容を一層充実させる。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<ul style="list-style-type: none"> ○「なかつスクスクプロジェクト」に係る「地域協育担当教員」を全ての小中学校の校務分掌に置き、地域の人材を活用した取り組みを教育課程の中に位置づけて実践している。 ○本年度も読書感想文・画コンクールを実施し、小中学生からの応募があり、内容的にも充実したものになっている。 ○地域教材「私たちの中津市」については、各小学校において社会科の時間に使用されている。 ○全ての小学校において「まちなみ歴史探検」事業が定着し、積極的に活用されている。 	4	B	学校教育課
<ul style="list-style-type: none"> ○平成24年度（平成25年3月31日現在）、不登校（不登校を理由に30日以上欠席）の状況にある小学生は28名（前年度比7名増）で、中学生は75名（前年度比4名増）である。（出現率は小学校0.59%、中学校3.11%） ○「魅力ある学校づくり」に取り組んだ学校では中1ギャップに伴う新入生の新たな不登校の出現が抑えられている。 ○中2年、3年は新たな不登校の増加が抑えられている。 ○各学校では、毎週、連絡票を市教委に報告することにより、欠席の子どもをより意識するようになってきている。また、早い段階（登校しぶり状況）での市教委指導主事の訪問、適応指導教室指導員の相談等の支援につなげている。 ○相談体制は、指導主事の他、指導員2名（任期付職員、嘱託員）、心理相談員1名（准教授）を配置し充実を図っている。 	3	C	学校教育課
<ul style="list-style-type: none"> ○教育補助員の増員を行った。（平成23年度：36名⇒平成24年度：42名） ○「個別の指導計画」は、特別支援学級在籍の児童生徒全員に作成できた。PDCAサイクルで学期毎に修正し、次学期の適切な支援につなぐことができている。 ○教育補助員の研修については年4回おこなった。具体的な支援の在り方や各校（園）の取り組みの交流を図り、効果的な支援方法について研修を深めることができた。 	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
11	3	H	教職員研修の充実	<p>教職員のOJT（職務を通じた能力開発）、人材育成、資質向上を図る。</p> <p>また、「学び合いのある授業づくり」をより一層定着させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中津市授業研究会の継続（予算化） <ul style="list-style-type: none"> ・東京大学佐藤学氏の招聘（授業観察・指導助言・講演） ○中学校ブロック支援事業の継続（予算化） <ul style="list-style-type: none"> ・大分大学伊藤安浩氏の招聘（授業観察・指導助言） ○先進地研修の継続（一部予算化） <ul style="list-style-type: none"> ・全国レベルの実践校への視察（茅ヶ崎市立浜之郷小・富士市立岳陽中など） ○校内研修の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事、学校指導専門員の積極的な参加（指導助言）
12	3	I	小規模小学校適正配置の検討	<p>効率的な小中連携の推進を図り、特色ある学校づくりを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現状と将来の教育のあり方を耶馬溪地域全体の問題として議論していただき、教育委員会の方針について理解を求める。なお、各校区のPTA及び耶馬溪地区保護者会が抱える不安材料（学校建設場所及び運動場使用等）の解消に取り組む。
13	4	J	PTAとの連携強化	<p>PTAと連携して、人づくりの基盤である家庭教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○PTA総会、中学校統一学校公開日の持ち方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校のPTA総会参加率アップ ・中学校統一学校公開日の参加率アップ ○開かれた学校づくりを推進する。 <ul style="list-style-type: none"> ・学校公開日の設定・学校評議員制度の充実・なかつスクスクプロジェクトの活用・学校ホームページの充実
14	4	J	生活習慣、学習環境、家庭学習	<p>人づくりの基盤である家庭教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣、テレビ・ゲーム時間の調節、家庭学習の習慣づけなどについて小中で連携して指導する。 ○「家庭学習の手引き」を各学校で作成し、保護者へ周知徹底するとともに効果的に活用する。 ○PTAと連携した「ノーテレビデー」の推進を図る。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○中津市授業研究会2回開催で延べ240名程の参加。講師の講演等で「学び合い」の理解が広がる。</p> <p>○先進地視察研修に15校が参加。その環流により校内の授業改善に生かされた。</p> <p>○伊藤教授の招聘校14校。専門家による指導助言は教職員の授業意識改善につながる。</p> <p>○指導主事や学校指導専門員等による学校訪問は、延べ120回以上であり、全ての学校において指導助言をおこなった。複数回に及ぶ学校も増加。</p>	4	B	学校教育課
<p>○教育委員会の目指す、効率的な小学校、中学校が連携した特色ある学校づくりについて、数回の会議を持ったが保護者には理解してもらうことが出来なかった。また、平成24年7月に2度にわたって発生した九州北部豪雨災害以降、その対応に追われたため、取り組みを行うことができなかった。</p>	2	C	耶馬溪教育C 教育総務課
<p>○PTA 総会参加率は、小学校で増（68.5%→71.6%）、中学校で減（48.5%→39.7%）、小中全体で減（61.8%→60.7%）である。</p> <p>○中学校統一学校公開日参加率は、豪雨災害の影響もあり、1,248名（前年度比-292名）であった。</p> <p>○学校ホームページは学校毎に充実を図っている。</p>	3	C	学校教育課
<p>○平成24年度小学校5年生、中学校2年生の状況は、「平日・休日の学習時間」「読書習慣」が県平均を下回り、「平日・休日の平均テレビ視聴時間」は、県平均を上回っている。</p> <p>○中学校2年生の学習時間については、県平均を下回っているものの、前年比はやや増となっている。</p>	3	C	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
15	4	J	生活習慣、学習習慣、家庭学習	<p>中津市の家庭教育学級への新規受講者を増やす。 また、校区にとらわれず受講生同士の交流を活性化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○旧中津地区の校区ごとの家庭教育学級の運営を見直し、再編成することによって未開催校区の親にも学習の場を提供する。 ○同じ未就学の子ども、乳幼児とかかわりの深い福祉部局との連携を強化する。 ○家庭教育学級の存在を広く市民に知らせるための広報活動に力を入れる。 ○各教室の代表者と連携を密にしながら教室運営を行う。
16	5	K	コミュニティーセンターの計画的建設	<p>住民のニーズに応えた、小楠コミュニティーセンターの工事（本体工事）を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大分県林業・木材産業構造改革事業を利用し、木のぬくもりのある、バリアフリー化されたコミュニティーセンターを建設するため、平成24年6月までに造成工事を行い、本体工事を平成25年2月までに完成させる。
17	6	L	中津市地域協育振興プラン推進事業	<p>各中学校区において、学校支援活動である「なかつスクスクプロジェクト事業」を推進し、学校支援活動、支援ボランティア数を増加させる。</p> <p>また、放課後子ども教室の人材を学校支援の場に活かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校支援中心のコーディネーターと放課後支援中心のコーディネーターとの連携を深める。 ○成果の発表の場である「協育」フォーラムを本年度も開催し、事業目的や成果と課題の共有と各校区の情報交換を行い、次年度の活動に活かしていく。

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○チラシを見た人や子育て支援課の携帯サイトで学級の情報を知り、受講者は増えた。</p> <p>○3校区を合同にすることにより、子どもの話や各校区の子育てサークルの情報交換など交流が図れた。また、学級以外の日常で顔を合わせることがあり、顔見知りが増えてよかったとの感想も多くあがっている。</p>	4	C	生涯学習課
<p>○本体工事（建築・電気・機械・太陽光発電設備）は平成25年3月末完了し、計画通りに進んでいる。また、外構設計も出来上がっているため、平成25年度に外構工事に着工し、10月に供用開始の予定となっている。</p>	4	B	生涯学習課
<p>○【学校支援活動数】1,687回（昨年度1,448回） 【支援ボランティア実数】2,925人（昨年度2,241人） 学校支援活動回数、支援ボランティア数ともに増加。</p> <p>○放課後子ども教室のコーディネーターが校区ネットワーク会議に入ることにより放課後子ども教室の活動状況が周知され、学校支援活動の人材の幅が広がった。</p> <p>○平成25年3月16日に大幡コミュニティセンターを会場に学校、PTA、事業関係者及び地域住民を対象とした「協育フォーラム」を開催した。教育の協働による事例発表（北部、豊田校区）や「motto ひょうご事務局長 栗木 剛氏」による講演会を開催し、約100名の参加があった。</p>	4	B	生涯学習課

No	分類			目 標
	大	中	小	
18	6	L	放課後子ども教室（学びの教室）	<p>放課後中津子ども教室（学びの教室）は各小学校区において定着し、子どもの放課後対策としての機能を果たしているが、事業に関わる人材の高齢化や固定化が課題となっている。そこで、新規人材の発掘と企業やNPO等の団体、校区ネットワーク会議との連携、協力を促進し、人材発掘を図る。</p> <p>○担当者が各教室の現状を把握し、新規人材や新規団体を発掘、確保するための情報収集に努め、コーディネーター会議を通して、その情報を発信していく。 また、各教室同士の支援者、団体、校区ネットワーク会議との情報交換を密にし、支援者の共有化を図る。</p>
19	6	M	ワンパク！たんけん中津	<p>中津の歴史や産業について、中津ライオンズクラブの支援を受け、1泊2日の日程で現地視察し、見聞することによって知識を深め、ふるさと中津の再発見や愛着を持ってもらうことを目的に実施している。また、宿泊を通して他校児童・生徒との交流も図っている。しかし、参加児童在籍校の片寄りと三光地域、本耶馬溪町地域、耶馬溪町地域、山国町地域の小学校からの参加が少ないため、旧下毛地区の参加者を増やすには、学校との連携方法を検討する必要がある。</p> <p>○地元に住んでいながら行ったことがない場所や体験したことがない活動などを取り入れ、地元の児童にとっても魅力のあるものにする。 ○募集時期に旧下毛地区の学校訪問を行い、児童の応募を促進する。</p>
20	6	M	なかつキッズ・サイエンス	<p>小学校4,5,6年生を対象に科学実験や自然体験学習を2日間にわたって実施している。しかし、参加者の学校区に偏りがあり、これまで参加実績の少ない学校からの参加児童の増加を図る。</p> <p>○従来の開催場所（北部公民館）を見直し、市内全域から寄り付きのよい会場にする。 ○これまで、中津地区の小学校だけの募集であったが、三光地区の小学校にも募集をする。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課																								
<p>放課後中津子ども教室（学びの教室含） ○国、県からの運営予算削減の関係から実施日数が減少したが、限られた予算の中、各教室とも充実した活動及び教室運営ができた。 【実施校区…担当者 23 小学校区】</p> <table border="1" data-bbox="181 450 1066 719"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">子ども教室</th> <th colspan="2">学びの教室</th> </tr> <tr> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施日数</td> <td>1,455 日</td> <td>1,269 日</td> <td>851 日</td> <td>737 日</td> </tr> <tr> <td>実登録数（子ども）</td> <td>1,054 人</td> <td>909 人</td> <td>557 人</td> <td>475 人</td> </tr> <tr> <td>実人数（大人）</td> <td>632 人</td> <td>490 人</td> <td>117 人</td> <td>104 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○コーディネーター会議…年 4 回開催 ○啓発用ポスターを学校、公民館、市内商業施設に掲示した。 ○公民館講座、生涯学習大学の受講者へ、学習成果を子どもたちに還元することを依頼し、新規人材の発掘へ結びつける手立てとした。また、若年層の安全管理委員及び学習アドバイザーには未来のコーディネーター候補としての意識をもってもらうよう働きかけることによって、次世代人材の育成及び発掘につながり、新陳代謝を図ることができた。今後も支援者同士の情報共有を図り、連携を深めることで新規人材の確保につなげたい。</p>		子ども教室		学びの教室		H23	H24	H23	H24	実施日数	1,455 日	1,269 日	851 日	737 日	実登録数（子ども）	1,054 人	909 人	557 人	475 人	実人数（大人）	632 人	490 人	117 人	104 人	4	B	生涯学習課
		子ども教室		学びの教室																							
	H23	H24	H23	H24																							
実施日数	1,455 日	1,269 日	851 日	737 日																							
実登録数（子ども）	1,054 人	909 人	557 人	475 人																							
実人数（大人）	632 人	490 人	117 人	104 人																							
<p>○活動内容…【1 日目】神尾家住宅見学、日田往還散策見学、草本金山見学、コアやまくに（ふるさと工作：杉の葉アート）、やすらぎの郷やまくに宿泊、やまくに紙芝居読み聞かせ（日田往還、山本登久、毛谷村六助）【2 日目】下郷農協牛乳工場見学、鎌城畜産団地見学、耶馬溪アクアパーク見学、（高規格道路経由：耶馬溪→本耶馬溪）、古羅漢見学、耶馬溪風物館見学など下毛地区小学生にとっても普段行かない場所を訪問地を選び、興味深い体験活動を組むことで参加者の満足度が高かった。 ○募集方法…旧中津地区 11 小学校区は各学校に配布。旧下毛地区 12 小学校へは直接訪問し、学校長に直接募集依頼した。参加者数…43 人/50 人（7 人：体調不良によりキャンセル）・校區別申込者数：旧下毛/全体：8 人/69 人</p>	4	B	生涯学習課																								
<p>○開催場所を従来場所（北部公民館）から、市内（三光地区を含む）全域から寄り付きのよい大幡コミュニティーセンターにしたことにより、リピーター及び新規参加者が増えた。参加実績のない学校からは、4 年生の参加者が多かった。 ○参加者数：29 人（募集人数 30 人） ○三光地区の小学校にも募集要項を配布したが、参加者がなかった。三光地区においては、募集時期に学校訪問を行い、児童の応募を促進するなどの周知方法を検討する必要がある。</p>	4	B	生涯学習課																								

No	分類			目 標
	大	中	小	
21	6	M	三保小学校人形劇クラブの育成	<p>万年願以外に人形の芝居の発表の場をつくる。</p> <p>○老人介護施設やその他福祉施設等の慰問での上演ができるようにコーディネートする。</p>
22	6	M	福澤諭吉記念事業	<p>福澤諭吉の遺徳を顕彰し、それを継承するために福澤諭吉記念祭実行委員会が、毎年3つの記念事業（弁論大会、書写展、かるた大会）を実施している。それぞれの事業の周知を市民へ行い、一般観覧が可能な弁論大会と書写展への一般観覧者の増加と小中学校かるた大会への出場チームの増加を図る。</p> <p>○福澤諭吉記念事業ポスターの製作</p> <p>○ケーブルテレビ等、マスメディアの活用</p>
23	6	M	公民館活動における地域のふらさと学習	<p>公民館活動において、それぞれの校区の歴史をはじめ、校区にとらわれずに郷土を知る学習の場を増やす。</p> <p>また、地域の歴史を次世代に伝えることができる人材の育成を図る。</p> <p>○公民館講座への人材活用と郷土の歴史を学ぶ公民館サークルの活性化。</p> <p>○公民館を中心としたネットワークを活かしたふらさと学習や事業を展開する。</p> <p>○高齢者教室や女性学級の講座において、中津の歴史や文化などに関してこれまでにない講座を開催するための新規講師の選任を行う。</p>
24	6	M	中津市生涯学習大学「中津学」	<p>受講したことを評価することにより、年間を通じた受講を促進し、受講生を増やす。</p> <p>○受講カードを配布して受講の度に捺印し、受講回数が多い者を最後の開催日に表彰をする。</p>
25	6	M	「なかつ学びんびくく（子ども中津検定）」	<p>検定を通して、郷土中津の自然、動植物、歴史、昔話、偉人、文化、産業と交通、お祭り・イベントなどについて学び、自分たちの暮らすまちを知ることによって、故郷中津に愛着を持ち、故郷を誇りに思う心情を育てる。</p> <p>○検定の公式ガイドブックを作成して、夏休み前に市内小学生4, 5, 6年生に配布し、夏休みを学習期間として、2学期に検定試験を実施する。ガイドブックの作成、検定試験の方法、評価等は、実行委員会を開催し協議していく。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○クラブ児童は伝統芸能の練習を通して、行儀作法とコミュニケーションの取り方について熱心に学習することができた。練習成果の発表として、2月3日に開催された原田神社の万年願で演目を堂々とした立ち振る舞いで披露することができた。さらに、3月15日に校区の福祉施設にて利用者に向けて学習成果を発表し、喜んでいただいた。</p>	4	B	生涯学習課
<p>○記念事業の開催について、ケーブルテレビを利用して告知し、周知を図った。 ○弁論大会では、約50人の一般観覧があった。 ○書写展は会場を移し、図書館で開催することにより図書館利用者の観覧もあり、入場者が増えた。 ○諭吉かるた大会は、30チーム（昨年度34チーム）が出場し、中学生チームが7チームから10チームに増えた。</p>	4	B	生涯学習課
<p>○公民館活動はもとより、地域のふるさと学習などに公民館利用者が積極的に関わり、一定の成果を収めた。 【具体的な事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部校区…北部小学校通学路を中心に福澤諭吉語録の看板を60枚設置した。それを巡るオリエンテーリングに公民館女性学級がスタッフとして参加した。 ・豊田校区…公民館まつりのイベントとし実施したハロウィン・ウォークの開催は、日出町商店街内にチェックポイントを設けたことで、協力した商店の飾りつけや多くの参加者やその家族のパレードなどにより、商店街の賑わいに一役かった。 	4	C	生涯学習課
<p>○年間受講者数300人 (9回開催、1回平均33人、平成23年度は平均35人) 皆勤者5名</p>	2	C	生涯学習課
<p>○郷土中津の自然、動植物、歴史、昔話、偉人、文化、産業と交通、お祭り・イベントなどを網羅した公式ガイドブックを3,000部作成し、市内小学校4、5、6年生全員に配布した。また、市民からも好評だったため、500部増刷し販売した。9月23日に「子ども中津検定」を実施したが、参加した児童は事前に勉強した成果が出ており、1級2名、2級13名、3級17名を認定した。</p> <p>【成績】1級（ふるさとマスター認定）…2名（38/40、37/40）、2級…13名、3級…17名、平均26/40</p>	4	B	生涯学習課

No	分類			目 標
	大	中	小	
26	6	M	偉人シリーズ、マンガ本の発刊	<p>地域に対する誇りと愛着の心を育み地域の活性化を図ることを目的とし、郷土の埋もれた偉人の業績を顕彰するため、マンガ本を発刊する。</p> <p>○マンガ本については、平成24年度は幕末の剣術家島田虎之助を取り上げ、5千部印刷する。販売・配布は翌年度になるが、市内の各小学校から短大・大学校及び国内の県立図書館等に無料で配布するほか一部は販売する。</p>
27	7	N	利便性の向上	<p>だれもが気軽に利用できる「市民の本棚」となるような図書館づくりを目指す。</p> <p>○県下公立図書館の開館時間や開館日数を調査し、その結果を参考にして中津市の実情に応じた開館時間の延長や閉館日数の削減について検討を行う。</p> <p>また、それに伴う職員体制についてもあわせて検討する。</p> <p>○施設設備の整備（ICタグ、ICゲートの導入 視聴覚設備、移動図書館車の更新）</p>
28	7	N	学校図書館との連携	<p>本年度より配置された学校図書館司書を活用し、学校から図書館、図書館から学校への連携方法を確立する。</p> <p>○学校図書館の調査（施設、設備、書架、蔵書数等）を行う。</p>
29	7	N	子ども読書活動推進計画の策定	<p>平成25年度策定に向け、学校教育課、生涯学習課、子育て支援課と連携し協議する。</p> <p>○子ども読書活動推進計画策定連絡会を設立する。</p> <p>○子ども読書活動推進計画の策定のための研修会を開催する。（6月13日、8月9日、11月27日）</p>
30	7	0	芸術文化事業（木村記念美術館）	<p>鑑賞授業の実施や学校に出向いての出前鑑賞授業など、美術館を利用した教育プログラムを充実させる。</p> <p>○美術館活動の周知を図り、各学校に美術館を活用してもらうよう働きかける。</p> <p>○美術館を利用した対話型の鑑賞授業を行う。来館することが難しい学校については、学芸員が出向き出前鑑賞授業を行う。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
○マンガシリーズの第四弾として『マンガ 剣は心なり 島田虎之助』を、発刊した。販売・配布は平成 25 年度になるが、市内の各小学校から短大・大学校及び国内の県立図書館、各都道府県の剣道団体・体育協会、体育学部のある大学等に無料で配布するほか一部は販売する。	4	B	文化振興課
○閉館日の削減、開館時間の延長については内部で協議を行い、実施する場合に必要な職員数や勤務体制などの検討を行った。県下図書館の調査については行っていない。 ○施設設備の整備についてはすべて完了し利用に供している。	3	C	文化振興課
○これまで行っていた年 2 回の団体貸出しの方法を見直した。平成 24 年度より図書館が選んだ本を一方向的に持っていくことをやめ、学校の要望に基づいて本を提供することとした。尚、学校の図書館資料の利用状況を学期ごとに校長会で報告した。	4	C	文化振興課
○県下市町村の策定状況を考慮し早期に策定する必要があったため平成 24 年度に基本計画を策定し、実施計画は、平成 25 年度に策定することとした。	4	B	文化振興課
○「まちなみ歴史探検」（まち歩き）での学校の受け入れはあったが、本格的な美術鑑賞授業の実施には至っていない。県主催の美術鑑賞教育指導者セミナー等で研修を行い、対話型の鑑賞授業を実施する態勢を整えた。	2	D	文化振興課

No	分類			目 標
	大	中	小	
31	7	P	地域での歴史、文化研究支援	<ul style="list-style-type: none"> ■中津市歴史民俗資料館、村上・大江の両医家史料館の展示を見やすくするなどの工夫を行う。 ■旧市町村指定の文化財を整理・統合し、市内に散在している文化財の実態を調査・把握し、重要なものは指定を行い、保護に努め、市指定なら県指定へ、県指定なら国指定へ申請するなど更なる保護に努める。 ■埋蔵文化財については重要な遺跡が発見された場合、発掘調査現場での現地公開を行う。 ■また各種団体への講師派遣なども積極的に行っていく。 ○文化財調査委員の協力を得ながら、平成24年度は平成23年度に引き続き中津地区、本耶馬溪地区の指定文化財の実態調査・文化財台帳整理を行い、台帳整備を75%達成するよう努める。 ○中津地区三ノ丁に遺されている「おかこい山」を市指定に追加指定するよう作業を行う。 ○資料館では、収藏品台帳の整理及びデータベース化の作業を進め、収藏品台帳整理の結果を利用し、ホームページで公開が可能か調査を行う。 ○第4回大学生対象「アーカイブズ講座（博物館実習）」を開催する。 ○国指定史跡の長者屋敷官衙遺跡の整備基本計画の策定を行なう。 ○医家史料調査をもとに、中津市歴史民俗資料館分館医家史料館叢書を刊行する。 ○歴史民俗資料館の建物の修理に向けて事業計画を作成する。 ○資料館の所藏品や発掘出土品の収蔵施設の場所や空建物がないかなどの調査を行う。 ○発掘調査現場での現地公開、また各種団体への講師派遣なども積極的に行っていくと共に中津城の石垣めぐりや古代ゾーンめぐりの内容を充実させ周知、活用に努める。
32	7	Q	沖代条里展望施設工事、古代ゾーン遺跡見学者用パンフレット印刷	<p>沖代条里を見渡せる小高い場所に展望施設をつくる。条里水田を見学できるようにし、近くの「長者屋敷官衙遺跡」は当時の水田からとれた米を収める米蔵であり、沖代条里とも関連深い。長者屋敷官衙遺跡を核とした古代ルートを整備活用していく上で、条里の展望施設は古代遺跡の理解を深めるために必要であり、市民に「古代景観の残る街に暮らしている誇り」をもってもらおう効果がある。</p> <p>○沖代条里を見渡せる小高い場所である豊寿園横の市有地に擬木で囲んだ展望施設の平場をつくり、条里水田を見学できるようにし、条里景観の理解に役立てる。また、古代ゾーンの遺跡見学者のためのパンフレットを作成する。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<ul style="list-style-type: none"> ○文化財の実態調査や文化財台帳整理については、新たな事業が次々に発生するため、取り掛かることが出来なかった。 ○三ノ丁「おかこい山」を市指定に追加指定した。 ○収蔵品台帳をHP掲載する件については、容量が大きすぎて、このままでは掲載できないとのことから、他の方法を検討する。 ○アーカイブズ講座は、平成24年8月8日～12日にかけて、別府大学、九州大学、慶應大学の学生40名が参加して開催、指導の教授や参加学生から好評を得た。 ○長者屋敷官衙遺跡の基本計画策定は、軍師官兵衛の対応等で24年度は計画を実行できなかった。 ○村上医家史料館叢書第12集を刊行した。 ○歴史民俗資料館の修理に向けて、耐震診断後に設計委託する方向へ変更した。 ○資料収蔵施設については、旧市内ではふさわしい施設が見つからなかった。 ○農業振興施設建設予定地での現地説明会等、現地での公開や各種講演を行なった。 ○中津城の石垣めぐりは、ボランティアガイドを対象にガイド指導を行なった。中津城下町整備活用計画を策定し、観光ルートを検討した。古代ゾーンは、パンフレットを作成し、平成25年度に案内サインを設置するための基礎資料とした。 	3	B	文化振興課
<ul style="list-style-type: none"> ○条里展望施設は、当初予定していた市有地から変更し、3月末に豊寿園内の西端に建設した。変更により、より高い場所から条里を展望できるようになった。パンフレットは「古代のドアを、あけてごらん！」と題して、3月末に1万部刊行した。 	4	B	文化振興課

No	分類			目 標
	大	中	小	
33	8	R	スポーツ施設の計画的な整備	<p>中津市スポーツ振興基本計画で把握したスポーツ施設の状況を踏まえ、計画的に順次整備をおこなっていく。また、急を要する改修については早急に対処していく。</p> <p>○各施設の状況を把握し、施設を利用するうえで支障を来しているものや、対処が必要なものについては早急に改善していく。また、利用者への正しい利用方法についても周知していく。</p>
34	8	R	スポーツ施設の利用促進	<p>施設利用満足度を高める。</p> <p>○誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境つくるため、日常の安全管理を強化する。また、スポーツイベントなどを誘致して、スポーツの面白さや楽しさを伝えることで、市民のスポーツへの関心を高め、施設の利用促進につなげる。</p>
35	8	S	生涯スポーツの推進	<p>大人から子供まで加入することができ、色々なスポーツを選べる総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取り組む。</p> <p>また、様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに親しめる機会を増やす。</p> <p>○今年も5月の最終水曜日を「健康づくりの日」として広く周知し、施設の開放を行い、市民の健康づくりをサポートする。また、市内の体育施設を利用して、色々な大会、スポーツを誘致し、身近にスポーツと接する機会を増やす。オリンピックデーランを誘致し、誰もが参加できるスポーツイベントとして開催する。</p>
36	8	T	学校保健・体育環境の充実	<p>児童生徒及び教職員の健康診断の完全実施及び事後指導の充実を図る。</p> <p>また、学校環境の調査点検と改善を行う。</p> <p>○児童生徒及び教職員の健康診断の完全実施及び事後指導の徹底。(含メンタル)</p> <p>○学校環境の点検と改善。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○3ヵ年事業として進められている大貞総合運動公園整備事業の平成24年度分事業（駐車場整備）もほぼ完了し、平成25年度より野球場建設に着手することとしている。また、新野球場完成後、老朽化した永添野球場の解体整備についてもスポーツ推進審議会へ諮問し新たな利用計画の検討を進めた。</p>	4	B	体育保健課
<p>○各施設の老朽化が顕著になってきており、故障については早急な対応に努めた。三光総合運動公園多目的広場の陸上トラックについては、年間利用券を設け、利用者の利便性を高めた結果、利用者増に繋がった。また、今年度もVリーグ（バレーボール）、WJBL（女子バスケットボール）を誘致し、トップリーグのプレイを市民が間近に見ることができた。</p>	3	C	体育保健課
<p>○新たな総合型地域スポーツクラブの創設については、なかなか捗っていないのが現状である。しかし、スポーツイベントについては、オリンピックデーランで多数の市民の参加が得られた。また、松岡修造氏を招いておこなった中津市民講座についても、多くの方々の参加があった。これにより、市民にスポーツの面白さを改めて認識してもらうことができた。</p>	3	C	体育保健課
<p>○児童・生徒の健康診断は適切に実施できた。 ○教職員の健康診断は昨年に比べ未受診者が増えた。 （対象者535名中、未受診者12名※昨年1名） ○学校環境の整備は学校職員衛生委員会などの意見を踏まえ、教育総務課と連携し、行った。</p>	3	C	体育保健課

No	分類			目 標
	大	中	小	
37	9	U	生産者（団体）との連携	<p>J Aや漁協と連携を密にし、地場産野菜等の品目と使用量を拡大する。</p> <p>また、新たな生産者組織の育成について関係機関と協議する。</p> <p>○学校給食地産地消推進会議を通じて、行政関係者、J A、生産者等と地産地消の拡大に取り組む。</p> <p>また、新たな地場産食材を活用した献立を検討する。</p>
38	9	V	児童生徒、保護者への啓発	<p>学校の年間指導計画に基づき、食の重要性について学校と調理場が連携して給食指導を行う。</p> <p>○調理場全職員が協力して多くの学校を訪問し、子どもたちと一緒に給食を食べ、分かりやすく食の重要性等を説明して残菜の量が減るように指導する。また、保護者に対してもPTA 総会など様々な機会を利用して食育を推進する。</p>
39	9	W	全調理場のドライシステム化及び機械・器具等の更新	<p>第二共同調理場分を第一共同調理場で調理配送できるよう整備改修計画を進める。</p> <p>また、各調理場の機械設備について計画的に更新する。</p> <p>○第一共同調理場の整備改修とその整備改修後に残る第二共同調理場の土地、建物の利用等を検討する。</p> <p>○各調理場の機械設備等の現状を確認し、整備改修計画を立てる。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<ul style="list-style-type: none"> ○今年度より地産地消推進会議を年2回開催し、これまでの農産物のみの取り組みに加え、地元の魚を使った加工品の利用拡大を推進するために大分県漁協中津支店の担当者にも出席してもらい、旧下毛地域での利用拡大につながった。特に給食へのシシ肉、シカ肉の使用回数を年2回から3回に、地魚加工品を本耶馬溪、山国の調理場で初めて使用した。 ○三光地区で現在、新規就農者2名（夫婦）が玉ねぎ栽培の指導を受けており、来年度から栽培量の増が見込まれるまでになった。 	4	B	体育保健課
<ul style="list-style-type: none"> ○市内全小学校の新1年生の保護者を対象に児童と一緒に給食時に試食してもらい、その際「早寝、早起き、朝ごはん」をキーワードに学校だけでなく家庭での食育の重要性を説明した。 ○中津市学校給食運営審議会の保護者会において、食育指導を行った。また、学校保健会と合同で学校給食記念講演会を開催した。 ○残菜量の減少に向けた取り組みについては、一人あたりの残菜量が、平成22年度6.9kg、平成23年度6.2kg、平成24年度5.8kgと年々減少につながっている。 	3	B	体育保健課
<ul style="list-style-type: none"> ○第一共同調理場の実施設計において設計・設備関係業者等と協議しながら進めることができた。 ○また、中津市学校給食運営審議会において学校関係者や保護者の意見を聞きながら整備改修計画を立てることが出来た。 	4	B	体育保健課

Ⅲ 学識経験を有する者の知見

『基本目標に対する評価と今後に向けての課題』

大分大学名誉教授 軸丸 勇士

はじめに

教育は母親の胎内にいる時から臨終までが一人の人間に必要とされる時代になって来た。そのような長い時間の中で果たす教育委員会（教委）の役割は非常に大きい。その教委が毎年目標を掲げ、それが何処まで達成されているか自己点検や評価を実施しなければならず、大変な労力でもある。と共にそれが市民に対する説明責任でもあり、風通しの良い教育行政となる。「法にあるから」ではなく、市民の目線を十分に汲み取った「本物の課題達成」になることを願ってやまない。

今回、松田政隆氏とともに施策の点検・評価を行った。その結果を踏まえ、50年近く教育に携わってきた視点から評価と課題について、代表して意見を述べる。

1. 教育委員会の充実

国づくりまちづくりの大切さが言われる中にも関わらず、人員削減だけは進行し、対応しなければならぬ時にできないのが現状である。教育委員会に対しては、市民の関心が高く、要望も多い中、開かれた委員会や学校づくりに努めている状況がうかがえる。今後も住民や保護者、学校現場との意見交換の場を持ち、その声を聞きながら、時間のかかる内容も多いが、歩みを進めてほしい。

2. 施設設備（学校施設の安全・安心な環境整備）

最近、社会問題にもなっている耐震化対策も前倒し予算を確保するなどして充実すると共に、地元木材を使用し、情操教育に役立てる工夫など努力の結晶が見られる。

災害時には避難所にもなることを考えれば完全とは言えないが、それに向けての努力を期待する。

3. 学びの基礎を培う学校教育（一人ひとりを大切にする教育）

授業改善においては、各教職員の意識向上が必要であるため、研修の工夫と継続、学校内での連携が重要となってくる。また、学習障がいなど様々なハンディキャップを持つ児童生徒が増加傾向にある昨今、児童生徒と共に教員や各種支援者と連携しながら関わっているのは、個を大切にする意識が充ちていることの証である。今後もこの姿勢を忘れないでほしい。

教育資源の有効活用や耐震補強対策は計画的に実施されており時間経過で完全になるであろう。だが、学校教育充実のための小規模校の統廃合は少子化故に避けては通れない大きな課題で、早急な施策が必要である。

4. 学校と家庭の連携

連携に向けて色々な試みを行いつつ、更なる意志の通いを計るべく努力していることは判るが、家庭の協力が今ひとつほしい状態である。是非、連携に向けて努力を続けてほしい。また、テレビ視聴の時間数も問題だが、視聴番組の内容も重要である。情報を選択し、質を見極める力が将来の社会を生きていくには必要であり、時間の規制だけでなく、視聴する番組についても家庭で話をし、情報選択する力を養うことも視野に入れてはどうだろうか。

5. 施設設備（その他の施設整備）

各地区のニーズに応じた施設建設を計画的に進め、地元木材を使用してバリアフリー化に役立てるなどし、コミュニティーセンターは生涯学習や健康づくりの拠点になりうる所として広がりつつある。これからもセンター利用者のニーズを収集して、新しい施設整備に役立ててほしい。また、今後は、ここでのソフト事業を如何に行うかが施設の有効活用につながる。

6. 学びつづける生涯学習（郷土に誇りを持つ市民）

各種の計画や事業が実施され、郷土に育ったことが誇れるひとへとつながる仕掛けが各所にみられる。これに参加すれば、その道のエキスパートとなり得る。その点では、新たな施策として「学びんびっく（子ども中津検定）」が実施されたことは評価する。今後は、エキスパートとなった子どもたちの次につながる施策が実施されるとさらに良い。取り組みがパターン化しないよう参加者の意見や感想などを取り入れ施策の向上につなげてほしい。今後の各人の努力に期待したい。

また、親芋が小芋の栄養分となり吸収されてしまうジャガイモ型成長ではなく、親芋は小芋をつくり、更に親も子も同じようになる里芋型成長を目指したいもの。子どもにだけ学ばせるのではなく、大人が手本になる、つまり、ジャガイモから里いも型学習になることが課題である。

7. 文化芸術の香るまち（文化・芸術活動の推進）

図書館充実には、ハードとソフトの両面の内容充実を目指すところにある。施策の達成状況から見ると充実まで今少し時間を要するようである。学校図書館との連携面でも今後の施策充実に期待する。

子どもにとっての読書は、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、知識を深めるうえで欠くことの出来ないものである。読書により、身につけたことを実体験により体感し、それとは逆に、実体験により体感したことを読書により再認識し、生きる力として身につけていく。読書から学ぶ楽しさや面白さを知らせるには長い時間のかかる地道な作業も必要である。目先の数値に振り回されることのないよう、今後も充実した施策に期待する。

8. 健康づくり（生涯にわたるスポーツ振興「心豊かで健康な生活を」）

食えることと適度な運動は、健康づくりに欠かせないもの。健康づくりを行うための設備も地域に作られ、有効活用されると共に、スポーツに親しむためのイベントなども積極的に行われており、高齢化がますます進む中、高齢者の健康維持に一役買っており、医療費の抑制にもつながる工夫であると言える。

世代を超えた交流イベントなど施設をフルに利用した取り組みも拡大してほしい。

9. 健康な体づくり（安全安心でおいしい学校給食）

食の学習はいのちの学習として基礎となるもので、生産者とのつながりを持つことや残菜量減少推進によって、『おかげさま』や『もったいない』という心を養育する取り組みとして評価する。また、バランスの良い食事が家庭で減少している現在、学校がその補給の場になっている児童生徒も居る。その中で、新鮮で栄養に富んだ食事を美味しく食べられることは何物にも優る宝である。その設備の充実に向けた改築も始まろうとしており、今後の学校給食の目指す目標は一段と高まり期待されている。

【総評】

年度当初、新たに設定した目標に向けて各課が連携・協力しながら努力を重ねている。

各施策には、児童生徒や住民に対するサービスを提供するソフトからのアプローチと、施設建設等のハードからのアプローチがバランスよく認められた。今後は、両者を如何に上手く機能させるかが課題となる。これらが有機的に作用することで、自己評価や総合評価を高めることができる。また、それにより、達成率 80%以上を実現可能なものにできると考えられ、将来の中津市を担う大きな人材を生む力となる。

それぞれの施策においては、短期間で成果を得られるものではなく、将来に向けてその成果が実証されるものである。教育委員会には、目先の結果ばかりを追いかけるのではなく、中津の教育にとって何が必要なのかを見極め、各施策を着実に継続していくことを期待する。

IV おわりに

平成 21 年 3 月に策定した『中津市教育振興基本計画』においては、今後 10 年を通じて目指すべき教育の姿、基本構想として、次の目標を掲げています。

- ・ 自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成
- ・ いつでも どこでも 学べる環境作り

これら目標の実現に向けては、さらに以下の（１）から（４）の４項目の達成を図らなければなりません。

- （１）義務教育修了までに、責任ある社会の一員として自立していくための基礎となる、知、徳、体、食にコミュニケーションを加えたバランスのとれた力を育てます。
- （２）学校、家庭及び地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を図れる体制づくりを確立します。
- （３）誰もが生涯にわたり学ぶことができる環境を整備し、文化芸術活動やスポーツに親しむ機会を充実させます。
- （４）地域固有の文化・芸能の継承と保存整備に取り組みます。



自立する力



学習環境

平成 24 年度においては、9 項目を施策別基本目標として、39 項目を具体的な施策として取り組んできましたが、全体目標の達成に向けて効果的かつ着実に推進するためには、事業の点検とその結果のフィードバックが不可欠であり、今回の施策評価の過程においても、多くの課題が浮き彫りになりました。そのため、実施した施策について、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）の PDCA サイクルにより適応性や目標達成度、有効性の観点から自己点検・評価を行い、これを市民に公表し、市民の意見等の把握・反映に努め、次年度以降の進行管理を行っていきます。

